

突撃！リスクマネージャー！！

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー！

No2. 北里大学病院 医療安全管理室 医療安全管理者 花井恵子様

■病院概要

神奈川県 県北・県央地区、更には東京都を含んだ地域の中核となっている総合病院（1033床）。

昭和61年には救命救急センター棟を新設、さらに平成5年には特定機能病院の認定を受け、救急医療ならびに高度先進医療も積極的に推進されています。



危険予知トレーニングのセミナーや医療メディテーションセミナーなどの講師を務められ、医療事故対策の様々な分野でご活躍中の、花井様にお話を伺ってきました。

花井様の主な著書

- ・医療における危険予知訓練マニュアル ベーシック編（2007年安井電子出版）
- ・医療における危険予知訓練マニュアル 実践編（2007年安井電子出版）
- ・くすり Nursing Note 安全と薬看護手帳、（2007年メディカ出版）



1. 転倒・転落対策で重要なことは何ですか？

どちらの病院でもそうだと思いますが、ヒヤリ・ハット事例で1番多いのが与薬関連、2番目がチューブ関連、そして3番目が転倒・転落です。1、2番に関しては、医療提供側の対策や努力で軽減していくことが可能ですが、転倒・転落の場合は、患者様の要因が大きく、対策は簡単ではありません。

そんな中、病院側ができるのは患者様の「療養環境を整えてあげること」だと考えています。

例えば、病室には、キャスター付のオーバーテーブルや、点滴台などがありますが、それを支えにして立とうとして転倒される方がいらっしやったり、ベッド周りに設置された医療機器のコードなどに引っかかって転倒してしまったりということがあります。これには危険予知にも関係がありますが、支えとして使ってしまうような物やコード類はその患者様の周りがあると転倒が起きる可能性が高い、など考えながら、療養環境を整える事が重要だと思います。

2. 病院では、転倒・転落対策の為にどのようなことをされていますか？

当病院では、様々な問題に対して、「ワーキンググループ」を編成しています。「転倒・転落防止ワーキング」もその1つで、医療安全管理室のメンバー、医師、作業療法士、薬剤師、看護師の構成で、月に1度集会を行い、医療安全管理室に上がってくる転倒・転落事例の報告に対して、何が問題だったのかを追究し、対策を提案します。また、病棟内にいると、なかなか問題を客観的に見られない部分があるので、ワーキングの指摘のおかげで、「あっ、〇〇の対策をしていなかった。」等、気づくこともあります。離床センサーの管理に関しても、本来なら、効率的な運用のため、MEセンターでの一括管理が望ましいのですが、業務の関係で、当院では病棟管理になっています。そこで、ある病棟では離床センサーが足りず、ある病棟では使用せずに余っているという事がないよう、ワーキングでの報告結果を離床センサーの管理にも役立てています。例えば、ワーキングの報告で、離床センサーを使用した方が有効なのに、不足していて使えない病棟があれば、医療安全管理室から各病棟に貸出可能なセンサーがないかメールで問い合わせするなど、円滑な運用を心がけています。

本当は全病棟に行きわたるくらいの数を揃えられれば一番いいのですが(笑)

3. 転倒・転落対策に離床センサーを活用されていますか？

最初に使用した離床センサーは、着床を知らせるセンサーで(当時はそのタイプしか開発されていなかった)、個々の患者様によって、「有効」か「無効」かしか評価できませんでしたが、今は色々な種類のセンサーが開発されているので、「知りたい危険行動」によってセンサーを選ぶことが可能になり、患者様によって使い分けを行っています。そして、現場看護師にとって、床に足を付いた瞬間よりも、ベッドから降りようとする行動をキャッチしたいという考えも強いようです。

また、昔は、センサーにコードが付いている製品しかなかったので、「断線」が大きな問題となっていました。テクノスジャパンでコードが付いていない製品が開発され、現場看護師は「これはいい！」とたいへん喜んでいました。なぜなら、ベッド周りにコードがたくさんあるということは、患者様にとって、うっとうしく、そのためコードを引っ張ってしまったりします。また、看護師にとっても、患者様が寝ているベッドを移動する際、全てコード類をはずしたつもりでも1本残っていてそのまま引っ張って断線したりという事があるので、コードがないという事は患者様にとっても看護師にとっても嬉しいことなのです。

4. 北里大学病院様では様々な情報の配信網があるそうですね

北里大学病院では「KNN ニュース」という職員の為のTV放送があります。職員が2,000人近く居るので、院内会議で決定したことの連絡、院内行事や講演などの情報共有をKNN ニュースによって行っています。

病院独自の医療安全のマニュアルも発行しており、アセスメントスコアシートの記入方法や、転倒・転落が発生した場合の対応策をフローチャートで示したり、全職員共通の医療安全マニュアルとなっています。

また、医療安全管理室からも、2週間に1回は、院内のインシデント事例や、医療安全に関する情報をA4・1枚のニュースにして発行しています。これは、関東信越厚生局による、特定機能病院立ち入り検査でもお褒めの言葉をいただきました。



～インタビューの様子～